

## 学会彙報、奥付

雑誌名	漢文學會々報
巻	20
ページ	61-66
発行年	1961-06-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00148456">http://hdl.handle.net/2241/00148456</a>

虞とは実は黄帝に始まり舜に至る王朝の称谓ではないかと考  
えたい。

〔注十一〕 小林信明「中國上代陰陽五行思想の研究」一八一～四  
頁参照、私の小論はこの書に多くの示唆を与えられている。

〔注十二〕 古者、包犧氏之王天下也：始作八卦以通神明之德、以  
類萬物之情、作結繩而爲罔罟、以佃以漁、蓋取諸離、包犧氏  
没神農氏作、斲木爲耜、揉木爲耒、耒耨之利以教天下、蓋取  
諸益、日中爲市、致天下之民、聚天下之貨……神農氏没、  
黃帝堯舜氏作……垂衣裳而天下治、蓋取諸乾坤……

〔易繫辭傳〕

（東京教育大学大学院博士課程）

# 学会彙報

○昭和三十五年度漢文学会総会

〔漢文教育研究会〕 六月廿五日（土） 於都立九段高校

## 一、研究授業

一年二組（男女） 実施者 古賀周作氏

二年六組（男女） 笠井 幸氏

## 一、研究会

(イ) 研究会

(ロ) 当番校挨拶

司会

小嶋委員

今井委員

村田校長

伊藤国語主任

## (イ) 討論

一、討議会

司会 鎌田委員

〔漢文教科改定の問題について〕

(イ) 報告者

上原好一氏

(ロ) 意見書作製小委員会設置

（上原、鎌田、尾関、藤川、志賀、青木）

(イ) 閉会の辞

内野委員長

〔研究発表会〕 六月二十六日（日） 於東京教育大学

一、詩経国風と万葉集における表現の一考察

実践女子大附高 巨勢 進氏

一、宋代の詩論について

日大附二高 横山伊勢雄氏

一、老子孫登注二巻に関する一考察

高松高 藤原 高男氏

一、漢碑の文字学的一考察

小山台高 青木木菟哉氏

一、地域性から見た慎到思想

教育大学 緒形 暢夫氏

一、詩紀について

教育大学 鈴木 修次氏

## 〔総会〕

一、開会の辞

司会 鎌田委員

一、挨拶

内野委員長

一、報告並に議事

1 議長選出

田波又男氏

2 各部報告

(イ) 庶務報告

今井委員

(ロ) 研究一報告

緒形委員

(イ) 研究二報告

牛島委員

3 議事

- (イ) 昭和三十四年度収支決算並に昭和三十五年度予算審議委員改選 内野熊一郎氏 志賀一朗氏 牛島徳次氏
- (ロ) 鈴木修次氏当選

(ハ) 高等学校学習指導要領改定についての意見書

意 見 書

今回文部省から発表された高等学校学習指導要領改訂草案のうち、国語科について、本学会の総会において慎重に検討した結果、次の事項が可決されましたので、今後さらに善処されることを要望します。

一、教育課程審議会の答申のもつ意義の重要性に鑑み、その審議には当該学科の専門家をも交じえてさらに慎重を期すべきであった。漢文の科目名の廃止や書き下し文などによる指導の如き重大な改訂について、一方的に決定したことは、はなはだ遺憾である。

二、「古典甲」「古典乙一」「古典乙二」における漢文の履習単位は、改訂案に示された程度のものでは不十分である。さらに増加するように考慮されたい。

三、「古典甲」「古典乙一」「古典乙二」における漢文の学習が確實有効に実施されるよう取りはかるとともに、教員の養成や免許法の改訂などで、適切な措置を講ずべきである。

四、漢文の学習が系統的かつ確實有効に実施されるために、「古典乙一」「古典乙二」における漢文の教科書は別冊にすべきである。

五、書下し文による指導は、理論的にも実際のにも十分な研究が行なわれていないから、これを実施することは慎重を期すべきである。

昭和三十五年六月二十六日

東京教育大学漢文学会委員長 内野熊一郎

一、閉会の辞

○昭和三十五年度例会

五月七日(土) 自午後一時半

雑誌会 甲骨学第八号紹介

研究会 詩経国風篇と万葉集について

十二月十日(土)

研究会

一、先秦諸子と堯舜伝説

——禪讓説話を中心として——

一、漢簡の年号についての疑問

一、史記における武帝朝批判について

大学院修士課程

高橋 均君

田中 有君

中村 嘉弘君

青木木菟哉氏

巨勢 進氏

○昭和三十六年度漢文学関係講義題目

(一) 一般教育科目

小林教授

漢文学講読

(思想)

鎌田教授

〃

(文学)

(二) 外国語

牛島助教授

中国語

一、(講読)

〃

〃

(講読)

北浦講師

〃

一、(読本)



# ○東京教育大學漢文學會々則

- 一、本会は東京教育大學漢文學会と稱し、事務所を東京教育大學漢文學研究室に置く。
- 二、本会は漢文學及び漢文教育の研究と普及とを圖るのが目的である。
- 三、本会の會員は左の通りである。
  - 1 東京教育大學漢文學及び東京文理科大学、東京高等師範学校の漢文學関係教官（退官者を含む）
  - 2 東京教育大學漢文學專攻學生及び卒業生、並に東京文理科大学漢文學專攻卒業生
  - 3 その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
  - 1 總會 年一回
  - 2 會報及び會員名簿の發行
  - 3 その他必要な事項
  - 4 その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。

委員長 一名  
委員 若干名
- 六、委員長は本会を代表し委員とともに運営に當る。

委員は委員會を組織し会の研究會計庶務を分担する。
- 七、委員長は委員の互選による。

委員は東京教育大學學生中から五名、その他から若干名（一般會員より四名、及び東京教育大學助手）を會員の互選（學生委員は學生の互選）によつて選挙する。その任期は二年（學生委員は一年）とする。但し重任は差し支えない。
- 八、會員は會費年額四百円、（但し學生は半額）を納める。
- 九、本會会則の変更は委員會の審議を経て總會出席者の過半数の承認を得なければならぬ。

## 後記

○昨年に引き続き、今年も會報を發行することのできたのは、會員諸氏の各面よりする御協力力の賜物である。今後益々學會發展のため御協力をお願いしたい。

○今年も昨年に引き続き、高松市で印刷することにした。これについては、高松在住の會員、倉田貞美・藤川正数・小林久磨・藤原高男の各氏に編集校正等の勞を煩わした。ここに深甚の謝意を表し置きます。

（今井・志賀）

### 漢文學會々報第二十号

昭和三十六年六月二十日 印刷  
昭和三十六年六月廿五日 發行

（非売品）

編輯者

東京教育大學漢文學會

代表者 内野 熊一郎

印刷所

香川県高松市觀光通一ノ一ノ一五

株式会社 牟禮印刷所

發行所

東京教育大學漢文學會

振替東京四七六〇〇番

中国関係図書専門店

# 山本書店

東京都千代田区神保町二の七  
(電話) 三三〇九〇三  
振替 東京 五九九五〇

中国原書・中国関係洋書の  
御用命は

# 極東書店

本社 東京都千代田区神田神保町二の二  
(振替) 東京 一〇〇〇〇九  
出張所 東京都上京区河原町通り荒神口下ル  
(振替) 京都 五八二九  
(電) ③ 七九九二

中国図書・中国関係書

専門取扱

# 株式会社 大安

● 月 報  
1 年 300円  
東京都千代田区神田神保町二の一四  
電話 (三三二) 一六一二・五六四〇  
大阪市北区老松町三の二二 日新ビル  
京都市中京区河原町通竹屋町下ル西側

和漢古書籍売買

# 松雲堂

東京都千代田区神保町三ノ一  
電話 (331) 六四九八

東京・神田・錦町三・振替東京四〇五〇四 大修館書店

文学博士 小林信明著

# 古文尚書の研究

A5・六二〇頁  
価三、二〇〇円

『練古定書』の徹底的な調査と精密な分析を基として、古文尚書の伝承を明かにし、現行刊本の孔氏伝古文尚書の性格と地位を論究した、画期的専書。

●不朽の大著遂に完成!

内容見本送呈

B5判・総計二五〇頁 各巻二二〇頁  
定価・各巻 特製 六〇〇〇円  
上製 五〇〇〇円

東京文理大学名誉教授 諸橋轍次著  
文学博士

# 大漢和辞典 全13巻

## 書籍文物流通会発行図書略目

論語集注 影 璜川 吳氏 仿宋刊本  
上下二冊 晒入 二四〇円  
生活与会話 水世婦・中山時子著 三四〇円  
菊判 一五八頁

趣味と生活の中国語会話学習書

標準 中国語 北浦・加賀美・大山・中山著 二一五〇円  
B6判一五七頁

注音 中国語 中級 加賀美嘉富著 一八〇円  
B6判九六頁

標準 中国語作文 長谷川寛著 二一八〇円  
B6判一五五頁

今西博士朝鮮文獻目錄 美濃版袋 四七〇頁余  
蒐集 油印洋一冊一、八〇〇円

東京都文京区湯島聖堂構内

書籍文物流通会

電話 小石川(92)四六〇六番  
振替 東京二一九九六番

藤川正教 著 喪服礼の研究 A5判箱入上製 二三〇〇円

魏晉時代における 喪服 二〇〇〇円

堤留吉 著 天—生活と文学— A5判箱入上製 四五〇円

白留吉 著 白樂天の文学理論とその主張—資料篇— A5判上製 二五〇円

内野熊一郎 編 中国思想文学史 B6判並製 一〇〇〇円

竹田復編 初歩の論語 A5判並製 六五円

東京都新宿区敬文社 電話(二〇)三三八二八  
市谷砂土原町二ノ七 振替東京一四八八八八